




みどりの東北

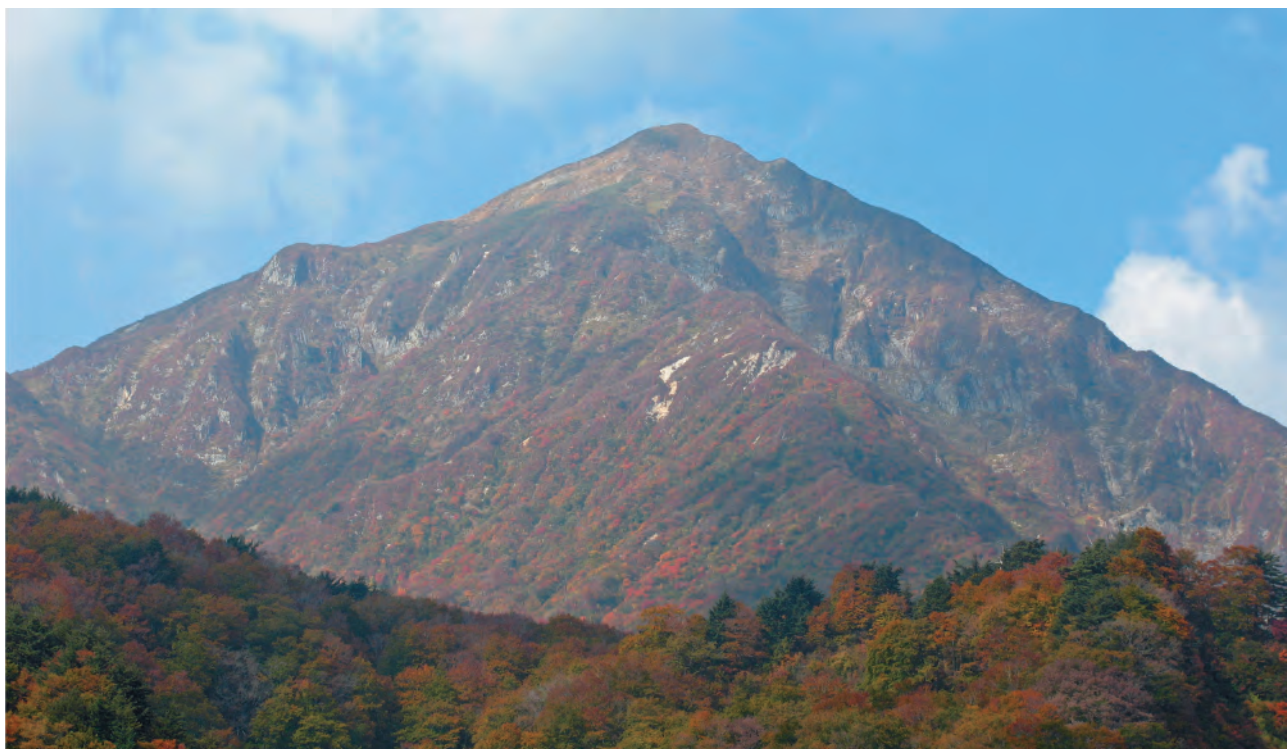
MIDORI no TOHOKU

平成20年11月

No.56

発行／東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2191

<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>



祝瓶山（標高1,417m）

祝瓶山（いわいがめやま）は、朝日連峰の前衛峰として山形県の長井市と小国町の境に位置しています。

三角錐型の山容から、東北のマッターホルンとも呼ばれ日本の300名山にもランクインしています。

独立峰のため山頂からは、朝日連峰や飯豊連峰など360度のパノラマを楽しむことができます。

写真は、長井市祝瓶山荘付近から撮影。

（写真提供：置賜森林管理署）



針生平登山コースの大石吊り橋

トピック

特集

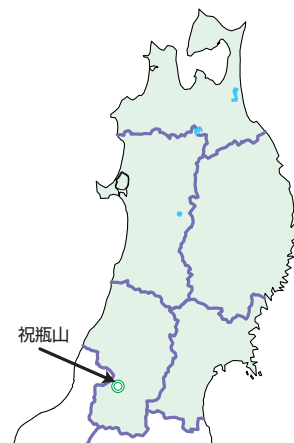
「森林計画の策定に係る現地検討会を開催」
計画課

美しい森林づくり

「森林資源を有効に活用した
木質バイオマスエネルギー導入」
山形県小国町

我が署の隠れた名所

秋田森林管理署湯沢支署「仙人水」



環境に優しい大豆油インキを使用しています。



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

特集コーナー

森林計画の策定に係る 現地検討会を開催

計画課



今年度は、下北、馬淵川上流及び宮城北部森林計画区の樹立年度となっており、十月十五日（水）～十六日（木）に、森林計画検討委員九名と、局長、次長、計画部長、森林整備部長、下北、岩手北部、盛岡、宮城北部各森林管理署長等総勢四十六名が参加し、岩手北部森林管理署管内において森林計画の策定に係る現地検討会を開催しました。



現地での局長挨拶

森林計画の樹立の方向について学識経験者な

どからなる各委員の皆さんに検討していただく他、岩手北部署の取組を現地で視察いただきました。初日は八幡平市の安比スキー場周辺の人工林（森林と人との共生林及び水土保全林）において、山崎局長より、美しい森林づくりの観点から、森林吸収源対策や針広混交林化、広葉樹林化による多様な森林への誘導など、



現地検討会に集まった委員の方々

の間の二酸化炭素のやりとりを観測する「安比二酸化炭素変動観測施設」及び八幡平市と協定を結んで取り組みを行っている遊々の森



安比二酸化炭素観測施設



プロット内での検討風景

などから意見をいただいた。挨拶がありました。その後、カ

ラムツの人工林箇所へ移動し、三箇所のプロットで林地の状況を見ながらの針広混交林等への誘導の考え方についての協議を行い、その後、緑の回廊内の動物移動を無人カメラで観測する「緑の回廊モニタリング施設」や森林総合研究所と協同でブナ林と上空の気象と

に予定している有識者検討会で再びご意見をいただくこととしております。



森林計画の策定に向け色々な意見が出されました

を視察しました。翌日は、現地検討会の内容や各森林計画区の樹立の方向を説明し、それぞれの課題についてご検討いただきました。各委員からは、
① 京都議定書の森林吸収源対策の目標達成のため間伐の推進を更に加速化するとあるが、間伐の実行による効果を表すために、具体的な数値を出したらよいのではないかと、
② 針広混交林化について、現地の状況に応じてきめ細やかな施策が必要になるのではないかと、
③ 最終的な森林の姿を想定して、どのような樹種構成の森林を目指すのか等の意見が出されました。
今回いただいた意見等を参考に森林計画の策定を進め、来年三月

東北ブロック現地検討会を開催

「低コスト作業システム構築事業」

販売課



平成二十年十月二十二日（水）
最上支署管内で日本林業技士会と当森林管理局の共同開催による「低コスト作業システム構築事業現地検討会」が、東北五県の民有林・国有林林業関係者百三十六名の参加の下、開催されました。

今回の会場は日本林業技士会が、林野庁補助事業により全国十カ所をモデル林に指定して、低コスト作業システムの開発・実証、低コスト路網作設技術者育成研修等の事業を展開している中の一つで、最上支署がフィールド提供し、当森林管理局が路網線形設計等に協力してきた「山形モデル林」において開催されたものです。



山形県低コスト作業システム取組の講演

「山形県の低コスト作業システムへの取組み」の講演があり、世界の林業国の労働生産性に比較し、低い日本の労働生産性を高め、低コスト化を図ることが必要であると強調されました。午



「ザウルスロボ」での作業道作設の実演

テムについて、宇都宮大学有賀準教授の「海外における低コスト林業の動向」、山形県森林課笠置主査の

後は舟形町の実証試験等が行われている国有林に会場を移し、最上支署長の概要説明後、プロセッサ・グラップルを主体とした車両系作業システムの実演やザウルスロボ（グラップル機能付バケット）による低コスト作業路（表土ブロック積工法）作設の実演を見学し、意見交換が行われ終了しました。

林野庁補助事業の「低コスト作業システム構築事業」は、来年度も引き続き実施され、その過程で車両系作業システム、架線系作業システム、低コスト作業路作設の各々の功程等のデータ収集を行い、公表されることになっており、林業関係者に期待されているとこ

各県・各地域で開催

列状間伐箇所での高性能林業機械による現地検討会を開催

三八上北森林管理署

十月九日（木）、当署と三八・上北流域林業活性化センターが共催し「低コスト作業路と高性能林業機械による作業仕組み」と題して列状間伐の現地検討会を、東北町横沢第二国有林において開催

し、青森県の各地域県民局職員や三八上北流域内市町村、県内の森林組合・林業事業体約百名が参加しました。

今回で三回目となる現地検討会は、木材市況の低迷などにより間伐が進まない現状から、伐採・搬出作業等の低コスト化が重要な課題であると捉え、間伐の推進による林業の活性化や森林の持つ公益的機能を高めるため、高性能林業機械等の普及と列状間伐の推進を目的に実施しました。

検討会では、主催者として小向次長が挨拶し、続いて現地概要を説明後、青森事務所の青山上席技術指導官から、壊れにくく耐久性のある低コスト作業路について、説明を受け、さらに施工済みのブロック積み工、洗越し工の二箇所を見学しました。またバックホウによる作業路作設の実演では、土砂流出や汚濁水の防止に向けた環境に優しい森林整備にあり方についての理解を深めました。

午後は、ロングアイムハーベスタ仕様車（最大作業半



青山指導官による洗越し工の説明

径十m)とス
ーパーロング
アーム仕様の
グラップル
(水平二十m)
の高性能林業
機械二台のデ
モンストレー
ションと各メ
ーカー担当者から性能等の説明が
ありました。



ロングアームグラップルでの集材作業の実演

参加者からは、デモを行った二
台の機械は、これまでより広い作
業範囲の集材が可能であることか
ら、列状間伐の集材や「かかり木」
処理に威力を発揮するとの意見も
あり、高性能林業機械の能力に理
解をする者が多く有意義な一日と
なりました。

最後に、青森県上北地域県民局
地域農林水産部徳田林業振興課長
の挨拶で検討会を終了していま
す。

山形県と共同で低コスト作業 システム研修会を開催

山形森林管理署

「美しい森林づくり国民運動」
に取り組むため、国有林・民有林
とも効率的な森林整備を行うため
の低コスト作業システムの構築が

急務であることから、十月十四・
十五日、山形県、県林業労働力確
保支援センターと共同で、「低コ
スト森林作業システム研修会」
(集材)を開催しました。

研修会は、今年七月に実施した
作業路作設研修に引き続き行っ
たもので、今回は高性能林業機械に
よる集材作業を目的として寒河江
市田代林業公社造林地で行いま
した。

当日は、林野庁業務課肥後企画
官を講師に招
いて、積載量
の異なるフォ
ワーダ(二・
八tと三・八
t)とグラッ
プルを組み合
わせた作業を
比較し、どち
らの作業効率
が良いか時間計測を行いました。
結果一日の集材量などを常に念頭
に入れて作業しないと、効率性が
発揮できないことが分かる研修と
なりました。



フォワーダやまびこを用いた運搬作業

引き続き県等と連携し、必要な
技術者・指導者養成のための事業
に取組み、山形県の地形等にあっ
た低コスト作業システムを推進し
ていくこととしています。

白神ブナ 鉈で傷

入山マナー遵守を訴え

指導普及課

東北森林管理局では、十月十九
日・二十三日・二十五日の三日間
にわたり、秋田駅・青森駅及び秋
田・青森両県の白神山地区への登山
口周辺で緊急の入山マナー遵守を
求める街頭活動を実施しました。

今回の緊急活動は、白神山地区
界遺産地域(全域が国有林)で発
生した「ブナ等への鉈等による損
傷」に対する怒りを込めた啓発活
動の一環で、準備された約千五百
枚のマナーチラシの配布や白神山
地のパネル展示、自然を守ろうと
書かれたのぼりを掲げる等、局及
び青森事務所、関係署等の職員が
中心とな

り展開し
ました。
マナー
チラシを
受け取っ
てくれた
市民の皆
さんから
は「一ひどい



秋田駅構内でのチラシ配布



暗門の滝入り口でのチラシ配布

ね」等々、怒りや理解を示してい
ただきました。

今回の活動は、テレビ放映され
たこともあり、より活動の効果が
期待されています。

今後は、当局を含む「白神山地
界遺産地域」の各機関(環境
省・林野庁・青森県・秋田県)が
再発防止に向けて連携を強化し、
白神山地の貴重な自然を守り、ま
た、白神山地を訪れる方々への意
識の向上を図っていくこととして
います。



配布されたチラシ

ことをす
るもんだ
ね」とか
「許せな
いね」、
「とても
残念なこ
とだね」、
「二度と
起きてほ
しくない

森林資源を有効に活用した木質バイオマスエネルギー導入

山形県小国町

小国町では、環境問題が地球規模の問題となつている中、緑豊かで美しい町を将来にわたつて維持・保全し、次の世代に引き継ぐための指針として「小国町環境基本計画」を平成十七年度に取りまとめました。この中で、ごみ減量

化などに加え、新しいエネルギーへの転換や、温室効果ガスの排出抑制、里山の維持活用などに重点的に取り組むこととしています。

さらに、平成十八年度においては、この環境基本計画に基づき、行政が先導的に地球温暖化の原因となる化石燃料から、森林資源を活用した木質バイオマスエネルギーへ転換するための方策を取りまとめた「小国町木質バイオマス利



導入した木質チップボイラー

用計画」を策定しました。この計画を基に事業化したのが、平成十九年度に着手した、「公共施設における木質バイオマスエネルギー導入事業」です。

これは、それまで重油ボイラーを熱源とする温水供給によって行っていた、役場庁舎暖房や役場駐車場の消雪、町道歩道の消雪について、木質チップボイラーに転換することにより、温室効果ガスの

排出削減に取り組むこととしたものです。これにより、年間十五万リットルの重油を削減することになり、これをCO₂に換算すると、年間四百一トンのCO₂排出を抑制することにつながります。一方、本町は豊かな森林資源に恵まれ、間伐材、林地残材などの未利用木質資源が賦存されていることから、これらをチップ化し木質チップボイラーの燃料とする循環利用を図ることで、産業振興などの波及効果も期待することができま

す。本事業の実施にあたっては、農林水産省の「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」を導入し、木質チップボイラーの設置を含めた新たな温水供給施設の整備を進めていきます。

この施設は、本年十月に完成し、十一月以降本格的に稼働することとなる



11月から本格稼働する温水供給施設

ています。

また、同交付金を活用して、小国町森林組合では、木質チップを製造するチップ製造機および関連機械設備を整備しており、木質チップ生産という新たな事業展開が図られることとなります。

小国町では、森林環境や里山の保全などを含めた森林資源の有効活用が、環境問題の鍵というところから、環境問題の鍵というところから、確実な取り組みを展開することとしています。



新たな事業展開が図られることとなる木質チップ生産

東北森林管理局

1階ロビーのご案内(11月)

・ミニギャラリー

油絵 四季の彩り展
秋田市 串田 正

・PRコーナー

森林環境保全
ふれあいセンター活動展
指導普及課

日本有数の大型海岸砂丘林 で日本一の森林ボランティア活動を目指して

庄内森林管理署

山形県の日本海側に位置する庄内海岸砂丘林は、北は遊佐町吹浦から南は鶴岡市湯野浜に至る延長三十四km、幅一・五〜三・五km、その面積はおよそ七千ha（国有林は八百三十五ha）、砂丘の規模から見て日本でも有数の大型砂丘林です。また、この砂丘林は、風や飛砂を防ぐために造成された歴史的な遺産であり、庄内地方の暮らしと産業に大いに役立っています。

この砂丘林を保全して後世に引き継ぐと庄内地方において山形県、地元自治体、森林ボランティア団体、森林組合、教育機関など多種多様な団体からなる「出羽庄内公益の森づくりを考える会」を設立、国有林・民有林を問わず森林ボランティア活動を通し、地域ぐるみで森林を守り育てていこうとする全国でも有数な保全活動を活発に展開しています。

この活動の主な場となっている森林を管理する署として、これら活動のリーダーとなり当会に企画し、ボランティア活動を支援し、団体や住民参加の森林保全活動に地域と共に取り組んでいます。



小学生による枝払い作業

本年度においては、森林ボランティア団体はもとより、地元小・中学校、高校を含む大勢の市民が参加し植樹、下刈り、除伐、刈払い木の集積等十数回に及ぶ森林ボランティア活動が行われ、当署としてもその都度、指導や器具の貸し出しを行い、安全・円滑な活動が行えるよう積極的に協力・連携を図っています。特に六月に遊佐町で開催された山形県主催による「やまがた森の感謝祭」においては、五百人の参加による今までにない、大規模なボランティア活動となり、署としても事前の打合せ

を考える会を二回開催し活発な意見交換を行い当署のボランティア活動に対して高い評価が寄せられ、期待が更に高まっています。また、当署のホームページに「地域発案システム」を掲載し、本活動の取組内容をリアルタイムで紹介しています。

普及活動としては、庄内海岸砂丘林の普及啓発・理解の増進に資するため、庄内砂丘林に関するパンフレット「わたしたちの庄内海岸林物語」を三月に作成・配布しています。このパンフレットは庄内砂丘林の江戸時代、終戦後、現在のボランティア活動を紹介する三部構成で、子供でも理解ができるよう平易な内容で作成しています。

こうしたボランティア活動、保全に対する意識啓発活動等を活発に実施した功労が認められ、局長から感謝状（自主的な森林整備活動に対する感謝状「森からの感謝状」）が、公益の森づくりを考える会に企画している二団体へ、平



活発な意見がされた考える会

や当日の活動を行いました。ボランティア活動の他に、本活動の抛り所となる公益の森づくりを考える会を二回開催し活発な意見交換を行い当署のボランティア活動に対して高い評価が寄せられ、期待が更に高まっています。また、当署のホームページに「地域発案システム」を掲載し、本活動の取組内容をリアルタイムで紹介しています。

普及活動としては、庄内海岸砂丘林の普及啓発・理解の増進に資するため、庄内砂丘林に関するパンフレット「わたしたちの庄内海岸林物語」を三月に作成・配布しています。このパンフレットは庄内砂丘林の江戸時代、終戦後、現在のボランティア活動を紹介する三部構成で、子供でも理解ができるよう平易な内容で作成しています。

こうしたボランティア活動、保全に対する意識啓発活動等を活発に実施した功労が認められ、局長から感謝状（自主的な森林整備活動に対する感謝状「森からの感謝状」）が、公益の森づくりを考える会に企画している二団体へ、平

成十八、十九年それぞれ送られております。

このような活動で庄内砂丘のクロマツ林の保全が図られていることは勿論、マスコミから紹介され庄内砂丘林をPRする機会となっているほか、ボランティア活動への参加・支援に対して地元自治体の森林ボランティア団体や学校等から深い感謝の意が寄せられており、国有林の取組みが理解され評価と期待が更に高まっています。

クロマツ林は庄内の歴史遺産、財産です。不毛の砂丘に植林を続けた先人の遺業を後世に引き継ぐため、今後も引き続きボランティアの積極的な活動を支援し、地域ぐるみでの森林保全活動を行い、国有林は国民の森林であるということの定着を図って参ります。



作製したパンフレット

【訂正とお詫び（十月号）】
四ページ「美しい森林づくり」の会社名は、
（有）二和木材の誤りでした。



写真-1 カラマツの球果



写真-2 カラマツの雄花と雌花

カラマツは本州中部地方と蔵王馬ノ神岳に天然分布しています。東北地方では岩手県を中心に山岳地帯に広く植林されています。新緑、黄葉の時期はとてきれいです。

皆様の中でカラマツの球果（いわゆる松ぼっくり）（写真-1）を見たことがあるかと思いますが、花は開葉より少し早く咲きますので、気付く人は少ないかと思えます。樹齢が高くなると雌花は毎年咲くようになりますが、雌花は五年に一回位しか咲きません（写真-2、3）。

カラマツの仲間は北半球北部に広く分布し、主要造林樹種となっているカラマツ節と、中国中南部、ヒマラヤ、アメリカ西部に狭く分布しているトウカラマツ節に分けられています。カラマツ節は雌花の形が樹種によって違いがあります。カラマツ、チョウセンカラマツ（写真-4、ロシア東南部、中国東北部、朝鮮に分布）、ヨーロッパカラマツ（写真-5、ヨーロッパに分布）、パアルプスに分布）はいずれも花びらに似ている苞リンが反り返ります。グイマツ（写真-6、千島列島、樺太、ロシア東部に分布）、ダフリカカラマツ（写真-7、東ロシア、モンゴル、中国東北部に分布）は苞リンが反り返りません。

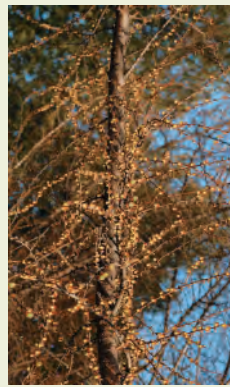


写真-3 枝全体に着いたカラマツの花

【森のお話】
…コラム…

カラマツの仲間の花と球果

普段お目にかかれませんがいろいろあります

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

半田 孝俊

北米に分布するアメリカカラマツは花が小さく苞リンが反り返りません（写真-8）。もつとも特徴があるのがロシアの中部に分布するシベリアカラマツで、苞リンが反り返りその先が長く、色は赤紫です（写真-9）。



写真-8 アメリカカラマツの雌花



写真-6 グイマツの雌花



写真-4 チョウセンカラマツの雌花



写真-9 シベリアカラマツの雌花



写真-7 ダフリカカラマツの雌花



写真-5 ヨーロッパカラマツの雌花

球果の形もそれぞれ特徴があり、一番小さくて丸いのがアメリカカラマツ（写真-10）、次いで大きいのがグイマツ（写真-11）、ダフリカカラマツ（写真-12）、カラマツ（写真-1）、シベリアカラマツ（写真-13）、一番大きいのがチョウセンカラマツ（写真-14）。

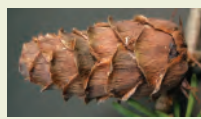


写真-14 チョウセンカラマツの球果



写真-12 ダフリカカラマツの球果



写真-10 アメリカカラマツの球果



写真-15 ヨーロッパカラマツの球果



写真-13 シベリアカラマツの球果

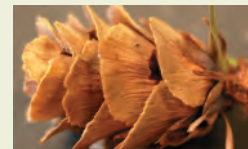


写真-11 グイマツの球果

ヨーロッパカラマツ（写真-15）のグループとなります。シベリアカラマツは球果が赤く毛が生えているのが特徴です。

海外で大人気 日本のカラマツ

カラマツは中国では成長が良いことから人気があります。十年前に湖北省の林木育種プロジェクトで大規模な試験地が造成されています。ヨーロッパでも人気があります。ヨーロッパカラマツとの雑種が造林されています。雑種の雌花、球果の形は両親の中間です。カラマツの種子を輸出するには許可が必要です。



盛岡森林管理署

「トラツクの森」
記念植樹式を開催

九月二十四日、岩洞湖（盛岡市）に近い外山第一国有林において、「トラツクの森」記念植樹式が行われました。「トラツクの森」は、（社）全日本トラツク協会が、地球温暖化ガス（CO₂）の削減を目標として平成十五年度より取り組んでいる森づくり事業で、東北地方では初めての設定となります。

今回の「トラツクの森」は、二十八年生のカラマツ人工林約四・一ヘクタールを対象に、（社）国土緑化推進機構の協力を得て、法

人の森林（分収育林）契約を結ぶものであり、今後は、間伐等の森林整備や管理を森林管理署が行うとともに、トラツク協会による森林体験等の場として活用されます。

記念植樹式は、天候に恵まれ秋空の下で、トラツク協会をはじめ（社）国土緑化推進機構、東北森林管理局青森事務所・盛岡森林管理署、岩手森の会（森林整備ボランティア団体）の関係者約六十名が参加し、主催者等の挨拶が続いて、看板除幕式及びイタヤカエデ・ヤマモミジ百五十本の記念植樹に汗を流しました。

青森事務所長から、「林業関係



関係者と記念写真

者と、物流の中核であるトラツク業界の協働により、間伐及び間伐材の搬出・利用が促進され、地球温暖化防止につながる。本日の記念植樹式がその接点となることを期待している。」との挨拶があり、参加者は「トラツクの森」設定の意義をかみしめていました。

秋田森林管理署

森林ガイド事業で
国有林治山等をPR

十月十五日、紅葉期に入った仙北市の玉川温泉自然観察教育林（玉川温泉）において、一般市民の方々三十五名の参加を得て、森林ガイド事業を実施しました。

現地では、ビクターセンター内の玉川温泉の生成物で国の天然記念物となっている「北投石」などに関する展示物などを見学。昼食後は散策歩道に沿って、自然観察教育林の紅葉を観察しました。

続いて、当該地周辺における当署の取組みを紹介。自然観察教育林内に存する「北投石」の盗掘防止の取締を警察署等と連携しながら

ら毎年実施していること。また、昨年豪雨被害のあった国道三四一号線及び玉川温泉周辺において、地域の復旧要望を踏まえて「安全・安心」を確保するための治山事業を実施していること。そして、その工事内容も景観等に十分配慮したものとしていることなどについて説明を行いました。

参加者からは「国有林野事業や治山事業の重要性が理解できた」、「来年度もぜひ参加したい」との声があり、当署では、今後もガイド事業等を通して、間伐の促進、治山事業の実施等国有林が取り組んでいる各種事業の積極的なPRに努めていくこととしています。



治山事業地（玉川温泉）で現地説明

米代西部森林管理署

「風の松原」で健康づくり講座を開催

十月十日（金）、能代市「風の松原」で、秋田県（北秋田・山本地域振興局）から協力を頂き、一般の方を対象とした「健康づくり講座」を行いました。

当署では、今年度の地域発案の取り組みとして、「風の松原」を活用した取り組みを行うこととしており、昨年の秋田わかずぎ国体の開催をきっかけに、県民の体力向上、健康づくりに力を入れていた秋田県から講師を派遣していただき、「松原で健康づくり」と題して講座を開催しました。

講座の内容は、当署が松原で行った事業の紹介と秋田県立大学木材高度加工研究所の谷田貝所長から提供いただいた資料に基づき、クロマツから抽出された精油成分が、血圧を下げる効果などがあることを、流域管理調整官がパワーポイントを使って説明しました。秋田県からはストレッチとウォーキングの基本、健康チェックとウォーキング前後の効果を比較す

るため、血圧と体脂肪測定に協力をいただきました。

五十歳代から七十歳代までの参加者十六名は、講師の指導のもと

ストレッチを行い、松原に整備された「健康づくりのみち」を、体脂肪燃焼を意識した速いペースで歩き、気持ちのよい汗をかきながらスポーツの秋を楽しみました。

参加者のウォーキング前後の血圧、体脂肪の測定結果を表にして比較すると、運動後の数値が下がったという傾向が一目で分かり、参加者からは、ウォーキングの効果が実感できた、意識して歩くよう心がけたい、などの声が聞かれました。

県から協力をいただいで開催したこの講座が、森林浴の効果について理解が深まり、松原を利用した健康づくりの参考になったことが実感できた有意義なものとなりました。



体脂肪燃焼を意識して歩く参加者

岩手南部森林管理署

地域発案システム「東山松・山吹棚田」

〜次代に残そう！故郷の原風景の実施〜

十月七日（火）一関市大東町において地域発案システムを実施しました。

当日は、一関市大東支所、地元山吹棚田米生産組合、ボランティア四十三名による農と林のフィールド整備と一関アカマツ総合試験地の散策を実施しました。

東山松は岩手県内の侍浜松、御堂松と並ぶアカマツブランドで、特別母樹林にも指定されております。

当署流域管理調整官より参加者へ東山松の説明をしながら林内の散策を実施、その後場所を山吹地区へ移動し、大東支所、地元山吹棚田米生産組合の方から日本の棚田百選に認定されている北限の棚田「山吹」の維持管理や高齢化による苦労話などの説明を受け、午後からは棚田周辺のフィールド整備を実施しました。

作業前、森林官より鎌の使い方や作業時の注意点を説明後、作業

を開始しましたが、作業中は慣れない道具と、クズを主とする植生に悪戦苦闘しながら、気持ちのいい汗をかいていました。作業終了後、棚田米生産組合の方より搾りたての牛乳とトマトの差し入れを頂き、作業の疲れを癒し終了となりました。



棚田周辺のフィールド整備に取り組む参加者

★棚田とは、勾配が二十%以上の急な斜面に階段状に作られている田んぼのことです。

★山吹棚田は、およそ二ヘクタールに四十枚の水田群があり、最大八アール、最小は畳二枚分の大きさで、用水は林内から湧き出る沢水を使用し、汚染がなく高付加価値米を生産しています。

庄内森林管理署

紅葉探勝と

ブナの植樹活動

十月二十九日、湯殿山の「月山ブナ林施業公園」等において『紅葉の月山ブナ林探勝と植樹会』を開催しました。この事業は、当署の森林ふれあい推進事業の一環として、国有林野事業の意義、役割等を理解していただくことを目的に行いました。

開催にあたり署長から歓迎の挨拶、国有林野事業の現状等の説明後、植樹会場へ向かいました。今回の植樹活動は、平成十八年度に完工した、地すべり災害復旧跡地の一部において森林再生のため開催するもので、途中バスの中で現地の地すべりの状況等を資料を用い、丁寧にわかりやすく説明しました。

現地に着後、現場職員による植樹指導の後、復旧跡地に緑がよみがえることを願いながら、地元樹種のブナを鋤を使い一本一本丁寧に植え付けました。当日は朝から雨模様で長靴、雨合羽を着用し、作業するには大変な天気でした。

が、植樹作業は予定どおり終了しました。

午後は、本事業の定番コースの一つとなつている月山ブナ林施業公園のブナ二次林で散策を楽しみながら、ブナについての理解を深め、思い思いに森林浴を満喫しました。

本事業での植樹活動は初めてですが、参加者からは「雨の中、大変だったが楽しかった。早く大きくなつてほしい。地元の山を大切にしたい。」などの声が寄せられました。



緑の再生を願いブナを植樹

を一般市民十九名の参加を得て開催、当日は好天に恵まれ最高の散策日よりとなりました。

開会に当たり支署長から国有林の主な取組の中から、地球温暖化防止に向けた森林整備の実施と、一般市民を対象に森林空間を利用した、森林とのふれあいの場の提供についての紹介や、支署管内の景勝地を紹介し機会を捉え国有林へ足を運んでいただき、森林に親しんでいただきたい旨の挨拶がありました。

参加者は三班に分かれ紅葉のブナ林の中を散策しながら一時間三〇分掛けて桃洞渓谷に向かいました。散策路沿いで、参加者による測樹体験や、測樹したブナの木に蓄積される二酸化炭素の量の説明。

人間一人が一年間に排出する二酸化炭素の量は測樹したブナの二本分強であること等の説明を行いました。また、散策路沿いにある、キハダ、ブナ、センノキ、トチノキ等の樹木の説明、紅葉する葉の色はどうして赤や黄色になるのか等の説明をし、森林に対する理解を深めていただきました。

その後、「桃洞の滝」で記念撮影をして、紅葉のブナ林の中で遅

めの昼食を取り下山しました。初めて桃洞渓谷に来た参加者も多く、「桃洞の滝」を見て「きれい」と歓声を上げていました。また、天然のナメコやムキタケを見つけ喜んでいました。

支署では、今後も森林ガイド事業等を通じ、国有林野事業のPRに努めていきたく考えています。



桃洞の滝をバックに記念写真

お礼状の紹介

前略ご免ください

先日は紅葉ブナ林・桃洞渓谷の散策に参加させていただき厚くお礼申し上げます。貴署職員皆々様の気配り心配りで富士山頂に立った感激同様に人生に残る素晴らしい一日を妻と一緒に味わうことができました。誠にありがとうございました。

「人は人なか、木は木なか」のことわざのごとく貴署職員の皆々様があのブナの大木に負けず大きく育つこと、貴署の益々のご発展を祈念申し上げます。お礼といたします。

森林ガイド事業開催

上小阿仁支署

十月十八日(土)、森吉山麓ノ口川流域において、森林ガイド事業「紅葉ブナ林・桃洞渓谷の散策」



“初めての森林官、現在奮闘中”

三陸中部森林管理署 世田米森林事務所

有本 実

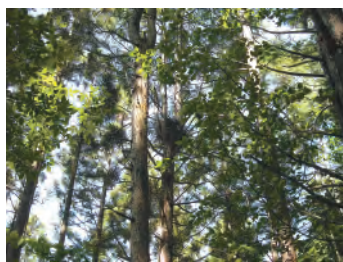
朝晩の冷え込みが次第に厳しくなり、事務所内に侵入するカメムシが増加してきました。

早いもので、森林官として世田米森林事務所に赴任して半年が経過しました。私が担当している世田米・高田森林事務所管内の国有林は大船渡市、陸前高田市、住田町に散在し、合計10,103haを管轄しています。

初めての森林官、当然ながら業務すべてが初めての事で、特に最初の1ヶ月間は気持の休まる瞬間がありませんでした。例えば赴任直後、地拵の監督と下刈の条件調査の命令がきました。監督ってどうやるのですか？条件調査って何ですか？などと安易に聞き出した答えほどすぐに忘れるので、まずは各種要領や規約等に目を通そうと試みます。が、その書類は一体事務所のどこにあるのでしょうか？さて・・・と事務所内を徘徊している間に業者から電話がかかってきたり巡視員の方が訪問して来たり。

日々何かしらの壁に突き当たりますが、そのたびに署内の皆さんや現場作業員の方々、また前任の森林官の援護や助言をいただき、何とか業務をこなしているところです。

ただ、辛く苦しいことばかりではありません。学生時代、林学ではなく生態学を専攻していた私は大の生物好き、また釣りや登山や茸狩り等自然好きです。どんな業務にしても仕事で山に行けるのは、やはりとても楽しいものです。ここで少し、生物屋さんの視点から管内の国有林の特色



ノスリ営巣木

を紹介してみようと思います。

現場で一息入れて何気なく空を見上げると、ノスリやオオタカ、サシバ等の猛禽類が悠々と巡回していることが度々ありました。国有林の健全な生態系の一面に触れたような、嬉しいひと時です。私は以前、民間の環境コンサル会社で野生生物調査に明け暮れていましたが、一度、住田町にイヌワシの営巣調査に訪れた事があります。その巣も含め世田米管内にはイヌワシ・クマタカの営巣地が数箇所あるため、営巣地周辺の森林施業には特に気

を遣います。造林請負業者に対しては、限定される施行期間についてご理解いただけるよう、分かりやすい説明を心掛けています。

一步林内に分け入ると、いたる所に鹿の糞が落ちています。この管内はホンシュウジカの生息地の北限にあたり、生息密度は相当高く感じられます。巡視中、結構な頻度で林床を低空飛翔する食糞性のオオセンチコガネが見られました。



オオセンチコガネ

鹿の糞を食べるこの昆虫が多いのも特色の一つですが、赤く輝く綺麗な体色に見とれている場合ではありません。高田管内では新植したスギが食べられたり樹皮を剥がされたり、鹿の食害が深刻な問題となっており、補植や改植、防鹿柵の設置を検討するなど、日々頭を悩ませています。加えて高田管内は松くい虫の被害地域でもあり、ボランティアの森林パトロール員の方々と協力しながら林野巡視を励行し、被害の早期発見・駆除に取り組んでいます。

10月最初の週末、プライベートで管内の最高峰・五葉山（標高1,351m）に登りました。「五葉山植物群落保護林」「北上高地緑の回廊」「五葉山県立自然公園」。様々な法規制が掛けられているこの山の保全と利活用に、一人の森林官としてどう関わっていけるのか。紅色に染まる稜線から大船渡湾を眺めながら、頭の片隅でほんやり考えていました。覚えるべき仕事、やるべき業務が多く、目まぐるしく多忙な毎日に押し潰されそうにもなりますが、山に行く楽しさだけは忘れないように、明日もまた現場に向かいます。



黒岩方面より五葉山

我が署の 隠れた名所

秋田森林管理署湯沢支署

「仙人水」

(見所の概要)

秋田県の東南端に位置し、東は奥羽山脈を境に岩手県に、南は宮城県に接する自然豊かな小さいがキラリと光る東成瀬村があります。村の総面積203.57km²のうち森林が93%を占め、人口は3,000人を割り込んでいます。そんな中に絶えることのない栗駒仙人水と呼ばれる湧き水、通称「仙人水」があります。仙人水は癖もなく水質も良好な水で、地ビール「田沢湖湖畔の杜ビール」や地酒「悠久の滴」に使用されているほか、地元のホテル「栗駒山荘」では宿限定「栗駒天然水ビール」にも使用され好評を得ています。また、多くの人たちから仙人水で入れたコーヒーや水割りは格別に美味しいと評判です。そんな中、去る6月14日に起きた岩手・宮城内陸地震では、甚大な被害を受け、水脈が途切れてしまうのではと一時心配されましたが、現在は復旧し、以前と同じように名水を求める多くの人々で賑わっています。



名水を求める多くの人々



復旧後の仙人水

東成瀬村には、今回紹介した「仙人水」のほかに四季を通じてブナ林・湿原の変化が楽しめる「野鳥の森」、湖底が酸化鉄のため赤褐色であることから別名朱沼と呼ばれている「須川湖」、泥炭地の湿原である「シラタマノキ湿原」、秋田、岩手、宮城の三県にまたがる「栗駒山」など見所満載です。栗駒の雄大な自然に抱かれた深い深い緑の国、東成瀬村へぜひ一度、おいで下さい。

交通アクセス

東は東北自動車道水沢ICから国道397号、南は東北自動車道一関ICから国道342号、秋田市からは秋田自動車道・湯沢横手道路十文字ICで降り国道342号。国道342号沿いにあります。(R342号線の一部区間が来春まで冬期閉鎖になるため仙人水に行くことは出来ません)



お問い合わせ先

〒012-0857 秋田県湯沢市千石町2-2-8
電話番号：050-3160-5835 FAX：0183-73-8768